

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071401097
法人名	有限会社 中山メディカルサービス
事業所名	グループホーム おあしす ありた
所在地	福岡県福岡市早良区有田6丁目2-5 (電話) 092-801-1122
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 20 日
評価結果確定日	平成 26 年 2 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

教育機関（保育園・小・中・高等学校）との交流・連携を充実することにより、入居者の方が子どもたちと触れ合える場を提供し、また教育機関には福祉学習の場として提供しています。
グループホームは利用料が高いですが、生活保護や低所得者でも安心して利用できるよう利用代を低価格に設定しています。
24時間体制を活し、地域に少しでも貢献できるようにとのことで、正社員は応急手当普及員の資格取得をし、福岡市消防局より「救マーク」の認定を頂き、AEDも購入しています。小学校PTAとも連携をとり、「子ども110番」の登録を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 25 年 12 月 19 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

医療法人が母体の3ユニットのグループホームとして開設し、すでに11年目になる。広めのフロアと眺めの良いバルコニー、明るい館内・居室など、快適な生活ができる環境が整っている。周辺は住宅に加え、団地、保育園、学校などがあり、年1回の事業所主催のバザー開催をはじめ、地域住民との交流も信頼関係を構築するに至っている。利用者の意見や希望をもとにその日の献立を決定するなど、日常生活の中での利用者とのコミュニケーションを大切にしている。職員の育成にも力を入れており、全員が理念に共有してのびのびと仕事をしている。福祉・医療・地域が一体となって今求められるサービスを一丸となって追求している。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おあしす」の名のもとに「穏やかな気分で安心して信頼される素晴らしい介護を目指す」というわかり易く親しみのある理念を掲げ、見やすいところに掲示し常に目につくようにしている	事業所独自の理念には地域密着型の視点もあり、わかりやすい表現で玄関に掲げられ、パンフレットなどにも記載されている。ユニット会議や朝礼の場などで確認をして、理念に沿った日々のケアを全職員で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防署より救マークを認定して頂いたり、子ども110番の指定、AEDの設置など地域に役立つ取り組みを行っている。 また、近隣の保育園・小学校・高校など発表・学習の場・ボランティアの受け入れを常に行っている	町内会・自治会に加入している。年1回の事業所主催のバザー開催にあたっては地域の協力もある。地域の夏祭りや運動会、学習発表会などへの利用者参加のほか、ボランティアの受け入れも行っている。地域とは日常的に交流がなされ、隣近所の方が立ち寄るような間柄までになっている。事業所便りは、個人情報データの点から回覧していない。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の教育機関の学習の場・ボランティアなど受け入れ時、子どもたちに認知症の方の理解や支援等わかりやすく話をし、理解して頂けるようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて地域包括センターの方や家族と話し合った内容をユニット会議にて報告や意見交換をし、サービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、参加者からの意見・要望・質問等に基づき、サービス向上に生かしている。利用者家族・地域包括職員・民生委員等で構成しているが、メンバーが固定している事もあり、検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者が居られるため、定期的に保護課へ連絡を取り、情報を提供している	日頃から行政へ運営に対する報告・連絡・相談を行っている。福岡市地域支援事業であるおむつサービスの申請や生活保護受給者に対する対応に力を入れ、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。地域包括支援センターとの交流もあり、運営上で困っている事などについての相談を、些細な事でも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業方針で身体拘束全面的に廃止にし、取り組んでいる 身体拘束の勉強会も定期的に各ユニットで行い、周知徹底に努めている	身体拘束に関する指針・マニュアルがあり、日中は玄関は施錠していない。職員は、フロア出入口に鈴を取り付け、利用者の外出傾向を把握し、見守り等を行うと同時に、近隣にも声をかけて連絡体制を整えるなど、安全面に配慮している。研修の機会も設けており、その資料等がある。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の外部研修に年1～2回行っており、それを基にユニット会議にて報告、勉強会を行っている また、職員同士絶えず声掛けを行い、虐待防止に努めている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の外部研修に年1～2回行っており、それを基にユニット会議にて報告し勉強会を行っている運営推進会議など話し合いをし、活用できるよう取り組んでいる	制度に関しては契約時や相談があった場合など随時説明している。職員間での研修も行っており、その資料があり、職員は制度を理解することの必要性を認識している。成年後見制度の利用が現在2名ある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って一つずつ声を掛け、不安がある際は丁寧にわかり易く説明をしている 改定時も一人一人家族と話し合いの場を持ち説明している		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見や要望をユニット会議や運営推進会議にて取り上げ、話し合いを行っている それを基に運営に反映できるよう運営会議にて報告、運営に反映できるよう努めている	利用者の願いや要望等（食事の献立、外出など）には、日々のかかわりの中で聴取を行い、速やかな対応につなげている。また、家族には面会時にも職員から声かけをして、意見や思いを述べる機会づくりに努めている。家族会はないが、運営推進会議に利用者家族が参加し、意見箱も設置している。苦情の申し出先についても常に説明を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議にて毎回スタッフより、意見や提案を求める声掛けを行っており、その意見を基に運営会議で話し合いを行っている	自己評価は管理者が全職員の意見を取りまとめている。また、職員はユニット会議などの中で意見や気付き等何でも言える環境にあり、管理者はそれを積極的に運営に取り入れ、信頼関係を築いている。離職は最小限に抑えており、職員が交替する時の引継にも十分時間を取っている。ユニット間での交流もある。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの意見や希望を取り入れたり、希望する研修が受けれるよう取り計らっている 毎年のベースアップや時給のアップなども常に検討している		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	スタッフの募集・採用に関して、年齢・性別などで排除しておらず、介護に対する熱意や人柄・介護観を重視している また、キャリアアップ制度に準じた「おあしすありた」独自のスキルアップシートを準備している 経験年数や能力の向上アップのため、資格取得などに取り組んでいる	採用選考において、性別や年齢等を理由に対象から排除する事はない。また、入職後のスキルアップや研修への参加、資格取得の支援にも前向きで、体制も整っており、安心して働ける職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の人権についての研修に参加し、その研修を基にユニット会議で周知徹底している	人権に関する研修受講の資料があり、職員への伝達もなされている。人権を尊重した支援の実践を、管理者が中心となって取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望する研修また、本人の能力に合った外部の研修を受けれるよう取り計らっている 資格取得などに関して人材育成の取り組みを常に行っている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉関係者情報交換会へ出席し、意見を交換している 外部よりの研修（認知症実践者・リーダー研修など）を取り入れ、当施設を見て頂くとともに、お互いに意見を伝えあっている		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度も会う機会を取り入れ、不安や要望を聞いている 居室が空室の場合は短期入居を利用するよう努めている		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に何度も会う機会を取り入れ、見学なども随時受け入れている 表情などに気を付け、よりよい関係が築けるように努めている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	見学時に話をしっかり聞き、内容に応じ、市 発行の「高齢者のあらし」を参考にしたり、 必要時当事業所のケアマネに意見を求め 対応している		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	日常生活を過ごす場面特に料理などを中心に 知恵や裏技などを教えて頂いている 手伝って頂いた時などは感謝と労う気持ちを 言葉にして伝え、よい関係を築いている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	家族とよい関係を築くために、気づいたこと があれば随時連絡し、相談している 忙しい家族にはメール等柔軟な対応をするこ とにより、よい関係を築いている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	家族が同意した上で電話や面会など友人・知 り合いといつでも話せるような支援を行って いる ユニットの行事などで外出した際は馴染みの 場所に行けるようドライブのコースなどを考 えている	管理者および職員は、利用者の馴染みの場所 や人について利用者本人や家族などから把握 している。知人に訪問してもらったり、親族 や知人に電話や手紙で連絡をとるなど、利用 者が馴染んでこられた関係や地域住民とのつ ながりを継続できるよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の性格などを把握した上でリ ビングのソファなどでゆったりと話せる時 間を作っている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	契約終了後も入院先や転居先に出向き、面会 やその方の元の生活状態や経過などを伝えたり とフォローしている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人が今何を求めていること、希望等相手の立場に立つようにしている はい・いいえなどの簡単な質問や、表情や態度を常に汲み取るようにしている	利用者の思いや意向については、ユニット毎に行われている会議などにおいて、なるべく叶えられるように、また職員の間で共有できるように話し合いを行っている。日々の利用者の言葉や行動、仕草、表情などから、意思疎通が困難な方も含め、本人本位の支援を行っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴や環境など本人や家族より詳細な情報を提供して頂いている 日常生活の会話でも経験など今までの暮らしの出来事など引き出せるような会話作りに努めている		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特別なことだけでなく、詳細な事柄も含め徹底した申し送りをし、スタッフが共有することにより、一人一人の心身の状態の把握に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて、スタッフ・入居者・家族より日々の会話から出た希望などを出し合い、介護計画を作成している 入居者の現状に合わせた介護計画となるよう入院後・ＡＤＬ変化時など定期的に見直しを行っている	要介護認定の更新時期や入退院後、身体状況の変化があった時等に合わせ随時介護計画を作成し、変化がない場合でも１２ヶ月ごとに見直しを行っている。作成・見直しについては本人の思い、家族の希望、職員や医師の意見なども反映させており、家族への説明を行った際の署名・捺印がある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人別々の経過記録に日々の様子やケアプランに沿った内容のモニタリングを細かく記入し、気になったことなどをその都度報告し、見直しを行っている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生まれる入居者の希望や家族のニーズなどをその都度スタッフ同士で随時どういう風にしたら実現できるのかを話し合い、サービスに反映している		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の往診診療・訪問理美容・教育機関等と協働し、入居者が安全で豊かな暮らしになるよう支援している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけの病院をまず第一に考え、病院が遠かったり、希望がない場合に協力医療機関や往診診療できるクリニックを紹介している かかりつけ医とは信頼関係を築きながら、話し合いを常に行っている	これまでのかかりつけ医とのつながりを第一に考えるが、特に希望がなかったり、遠方の病院である場合には、協力医療機関や近医を紹介している。職員が通院介助を行う場合もあり、家族との連絡は密に行っている。施設への訪問診療も勤めている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師と情報共有するため、日々の状態や気づきを連携ノートに記入するとともに、週一回の訪問時（必要時は随時連絡する）口頭で内容を細かく説明・相談し、入居者や、スタッフが安心して受診に行けるように支援している		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診の時より主治医と連携を密に取り、スタッフや家族が病状などしっかり把握し、入院時や入院中など早期退院できるように何度も主治医・看護師・相談員と話し合いを行っている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時より重度化の対応についての書面を渡し、設備・人材ともに医療行為ができない旨を家族に随時伝えている 主治医と現状と今後について話し合いをし、施設でできることでないことを踏まえ、家族と話し合いの場を設け取り組んでいる	重度化・終末期のケアについては、ホーム内での医療行為はできない代わりに、医療機関と連携し対応する方針が明文化されており、申込み時・入所時に家族等にも説明している。ケアの方針については家族や主治医と協議し連携して取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正社員は応急手当普及員の資格をとり、年2回避難訓練時に人工呼吸やAEDの使い方の訓練を行っている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い消防署と連携を取って行っている 日頃より食糧や簡易トイレ・アルミシートなどの非常物品を揃え、緊急時に備えている	災害対策についてのマニュアルが作成され、消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施している。また、訓練の中で避難経路の確認、消火器の使用方法的説明も行われている。避難訓練の際には地域住民にチラシを配布し呼びかけを行っている。非常用備品については各ユニットに準備されている。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の内部・外部研修に参加し、周知徹底している スタッフ同士常に声を掛け合い、プライバシー保護に注意している	利用者の人格を尊重し、誘導や声かけは穏やかに行うよう心がけている。プライバシーを損ねない対応については、各ユニットで行われているユニット会議の中でも検討を行い、実践に結び付けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事で何を食べたいか、レクは何をしたいかなど、スタッフが決めるのではなく、本人の希望や意向を聞き、出来る限りそれを最優先させてる。自己決定の出来ない方は、2択用意したり、日頃の状態から表情など読み取り対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人、入浴やレクリエーションなどその日の体調や気分などでする・しないを決めて過ごしたりと、柔軟な対応ができるように支援している		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服が体形に合わなくなったりした場合など、ゴムなど調整し、お気に入りの服がいつでも着れるよう配慮している 訪問美容などでは、毛染めやパーマなど利用者自身の好みで行っている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいのかをまず聞いて、献立に組み込み調理している もやしの根取りなどできることをして頂いたり、できることをしてもらっている	各ユニットのキッチンで作るため、一人ひとりの好み、希望を聞きながらユニットごとに献立を決めて提供している。栄養バランスに応じて補助食の準備もある。また、職員もなるべく同じテーブルで同じ食事を摂るようにしており、一緒に楽しいひとときになるよう努めている。利用者は、職員と一緒に準備や片付けなども行う。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食簿を見、2～3日前からの食事が偏らないこと、1日30品目を摂取できるよう常に確認の上献立を決めている 主治医と相談し、おやつやジュースなど好みのものもできるだけ提供している 水分チェック表で水分の把握をし、体重を定期的に測定している		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人一人に合わせて毎食後～朝夕と口腔ケアの時間を分けている 週一回訪問歯科に来て頂き、口腔内を見て頂き、入居者のケアの仕方を教えて頂いている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立てる入居者はトイレに誘導している 普段パットのみの交換の入居者も便が出ない際は共同トイレにて排便を促している 排泄チェックリストにて個人のパターンを知ること誘導の声掛けを早めにし、失禁をなくしている	排泄チェック表を利用して一人ひとりのパターンを把握し、利用者個人に応じたさりげない支援を行っている。尿意のない方についても定時や必要時に誘導を行い、なるべくトイレで排泄するように、また紙おむつ等は軽い物に移行できるように、家族へ報告しながら、適切なケアを行う事で排泄の自立を促している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	麦ごはんや根菜ものなどの食物繊維の多い食品やヨーグルト・水分を多めにとって頂くなどしたり、腹部マッサージをし、便秘解消に取り組んでいる		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	火曜・金曜以外は入浴の日とし、本人の希望により時間や入浴日をずらしている 一人一人別々にゆったりと入って頂くよう支援している	週に5日は入浴が可能で、本人の希望を聞きながら入浴を楽しんでいただき、一人ひとりの状況に即した入浴支援を行っている。入浴を嫌がる利用者に対しては、気持ちが和らぐように介助方法に工夫を加えたり、寒い時には予め浴室を温めておいたり、と自然な形で促しにつなげている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を増やすよう心掛けている 体感温度・室温をこまめに調整し、気持ちよく寝れるよう支援している 寝れない方は傾聴したり、温かい飲み物を提供している		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より処方された薬情を基に、薬情ノートを個別に作成することにより、薬の変更や増加など柔軟に対応でき、スタッフ全員が周知しやすくしている また、薬チェック表などで服薬管理を徹底している		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の生活歴や嗜好品などをスタッフが把握することで、その人に合った役割を支援している 主治医と相談し、0カロリーのコーラや、カフェインレスのコーヒーなども提供している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調や希望・天候などにて出来るだけ出かけられるように配慮している。 遠方や普段行かないような場所の際は、家族と相談し出来るだけ出かけられるように支援している	利用者の希望をもとに、普段の外出ではなかなか行けない場所等を考え、ユニットごとの外出行事を企画したり、受診の機会のついでに買い物・ドライブなどに出かけたりしている。また、天候の状況によっては施設の広いベランダや広い駐車場などを利用して戸外に出るようにしている。家族の支援もある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、紛失してもいい位のお金を持って頂いている 金銭を各ユニットで預かり、必要なものを購入しているが、お小遣い帳を記入し、高いものを購入する際は事前に家族と相談している		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話をしたいと申し出がある際はいつでも出来るように支援している また、家族や友人より電話が来た際代わったり、入居者の動きが緩慢な際は折り返し掛けたりしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所はトイレなどわかり易いドアになっており各入居者ごとに表札を付けている 天候・季節・時間などを見極め、光や温度・湿度の管理を常に行っている 入居者の体感温度に合わせ、それぞれが快適になるよう居室の温度管理も行っている	フロアは居間や食堂などが見渡せて、職員らが調理をする様子を窺う事もできるなど、家庭的な空間になっている。家のどこにでもありそうなインテリアや調度類に加え、カーテンやクロスは落ち着いた色合いを使用しており、畳の間も備えている。採光や温度、湿度の適切な管理も行われ、心地よく過ごせる環境となっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室のため、一人になりたい際は居室で過ごして頂いている 気の合った入居者と話せるようにリビングの配置をし、ソファなどゆったりできる場所を提供している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に出来るだけ使い慣れた家具や布団を持って来て頂いている 本人が使いやすいよう配置換えをしている	居室には利用者の使い慣れた家具や寝具が使用されていて、写真やぬいぐるみ、家族の作品等が飾られている。仏壇を持ち込んでいる方もおられるなど、それぞれに個性が感じられ、本人が心地よく過ごせている事が容易に想像できる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴の椅子など種類を多くし、一人一人の身体機能に合わせて使用している 建物も高齢者が使いやすいようバリアフリーにしており、シルバーカーや車椅子がスムーズに移動できるようゆったりとした空間にしている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流を組み込んだ理念を作り、毎朝申し送り後に唱和し、スタッフ全員に意識付ける。また、理念を生かせるよう取り組みを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園との交流会や、近隣教育機関の研修ボランティアを積極的に受入れている。また、年1回のおあしす ありた祭には地域の方々にお越し頂いたり、出し物の参加もして頂いている。子ども110番や応急手当普及員の在中で安心できる地域作りに努めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、家族や地域の民生委員、包括支援センターの方に認知症について話す機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、家族（時折、他施設のスタッフ）に参加して頂き、利用者の状況や行事、スタッフの状況について報告行い、困難事例について助言を頂いている。そこで出た意見をスタッフと共有しサービス向上に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括や保護課との連携。市主催の研修への参加を積極的に取り入れている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し、勉強会を開いている。又、マニュアルをいつでも見れる所に置いている。ユニットでは見守りの徹底や声掛けの工夫にて身体拘束のないケアに取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し、それを全職員に周知している。また、ユニット会議にて日々のケアについて話し合い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会を設けている。また、必要な際には関係者と話し合い支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書の内容、グループホームについての説明を詳しく行い、質問等に答える時間を設けて納得のうえ署名、捺印を頂いている。料金改定や内容に変更のあった際には文書、面会時、電話にて理解を得る。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族との情報交換、コミュニケーションを密に図り関係作りを行う事で意見を出し易い雰囲気作りを行っている。また、出た意見はすぐに職員間で共有し対応する。面会簿を置いている場所に介護保険サービス苦情相談窓口のポスターを掲示し、意見を表せるように配慮している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者だけで決めるのではなく、ユニット会議等で職員の意見を聞き出し運営に反映させるようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状態、努力を評価し、実力に合った役付けを行ったり時給等のアップに繋げる事で向上心、やりがいを持って働けるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	スタッフ募集・採用にあたっては、性別や年齢等は判断材料から外し、本人のやる気や能力や人柄で判断するようにしている。働く職員も研修には積極的に参加させ、挑戦してみたい仕事があれば可能な限り行なわせる様配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は人権についての研修や講習会に参加し、ユニット会議で勉強会を開いている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修があれば情報を掲示し希望者には力量に合わせ出来る限り受講させる。その際には、勤務扱いにする事で働きながら学びやすい環境を作っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に積極的に参加する事により、そこで知り合った同業者と情報交換を行う様にしている。近隣の施設の行事にも出来るだけ参加し、交流を図る。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、家族や関係者に話を聞き本人の意向や情報収集に努め、出来るだけ本人との面談を行う様にしている。初期にはコミュニケーションを密に図り信頼関係を築き安心した生活が送れるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や契約時には、家族の意向を聞き、サービスを開始する上での要望や不安点等を聞き関係作りに努める。また、面会時にはこまめにコミュニケーションを図り情報交換を行う事で、信頼関係を築き良い関係作りが出来るよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に状態観察、情報収集に努めその時必要なサービスを見極め支援出来る様に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の立場に立って寄り添う介護を行うように心がけ信頼し合えるような関係づくりに努めている。日頃より利用者と共に家事、食事、レクリエーションを行う事で家庭的な雰囲気づくりを重視し暮らしを共にする者同士として過ごせるような関係づくりに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等で、本人と家族が触れ合えるきっかけ作りを行い面会時の情報の共有、状況報告等で共に本人を支えて行けるような関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には人目を気にせずゆっくり話が出来る様に配慮する。行きたい場所があれば家族の協力、了解を得て可能な限り叶えられるよう支援する。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を把握し、トラブルにならないように配慮しながら、レクや日々の会話を通し馴染の関係作りが出来る様にきっかけ作りを行う。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もバザー等行事へのお誘いや、年賀状、面会などを行う事で関係が途切れないよう配慮し、必要な際には相談を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションを通し、希望・意向の把握に努めている。また、聞き出せた希望は可能な限り叶えられるよう支援し、困難な際には本人の立場に立って本人本位で検討する。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族やケアマネから生活歴、経過等の情報を収集し、把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態観察を行い、一日の過ごし方、心身状況、ADLの現状把握に努め、ケアに活かしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日頃のコミュニケーションから意見を聞きだし計画書作成に活かしている。家族とは、面会時や電話にて話す機会を作り意見を聞く。医療機関とも連携を図り意見を聞き計画書に取り入れる。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子ケアについては経過記録に記入し、意見や変化があれば申し送り帳にも記入し職員間で共有し実践に活かす。また、月一回の会議にて一人ずつ意見を出し情報共有し計画書見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃より本人、家族とのコミュニケーションを重視し、その時々ニーズに合わせ柔軟な支援を行えるように心掛けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関の往診、訪問理美容、近隣の教育機関の訪問の受け入れ、公民館のサークルの出し物の受け入れなどを取り入れ安全で豊かな暮らしが出来る様に支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する馴染のかかりつけ医を受診する事を大切に、受診出来るように支援している。かかりつけ医との情報交換を行い関係作りに努めている。また、病状に合った医療機関の提案を行う事もある。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護師が勤務しており、その際には現状報告を密に行っている。また、急変時などには24時間連絡が取れるようになっている。往診時には、対象利用者の状況報告を密に行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より病院関係者との情報交換、連携を密に図り入院した際にも安心して治療が受けられるように配慮している。入院時にもホームでの状況を添書、口頭にて報告行い、入院中の情報交換をこまめに行うようにして早期に退院出来る様に対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时、申込み時、契約時に看護師が常駐していない旨を説明し、医療行為が出来ない事、事業所に出来る事を充分に説明し納得して頂いた上での入居となっている。(重度化の方針という冊子あり)また、重度化した際には、本人や家族、主治医と話し合い方針を決めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正社員は応急手当普及員を受けている。又、定期的に避難訓練を行い、その際応急手当の勉強会を行う時間を設けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日勤帯、夜勤帯を想定した避難訓練を行っている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者人格の尊重を重視し、それを損ねないような声掛けをそれぞれ心がけている。又、プライバシー保護にも十分な配慮をするよう心掛ける。ユニット会議等で話し合いそれぞれの言葉かけや対応を振り返る時間を設けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も必ず職員が決めるのではなく、本人の希望や意向を聞き、出来る限りそれを最優先させる。自己決定の出来ない方は、日頃の状態から読み取り対応する様にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた介護をする様にしている。希望があればその日の日勤者で話し合い、柔軟に対応するようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服は出来るだけ本人に選んで頂く。理美容時には本人の希望する髪型になるよう配慮する。衣類の購入時には一緒に行き好みのものを選んで頂く。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の調理担当者は利用者には何が食べたいか尋ね、それを献立に取り入れる。また、一人ひとりの力に合わせ出来る事は一緒にして頂くようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態、量にし提供するようにしている。検査簿を毎食記入し、調理時にはそれを確認し献立を決める事でバランスよく提供できるように配慮している。水分チェック表を記入し水分摂取量を確保出来る様に支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や力を把握し出来る所は自力にて行ってもらい、不十分な所は介助する。また、週一回の前田歯科往診にて口腔ケア、チェックをして頂きケアの仕方などのアドバイスを頂く。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ずつ排泄チェック表を付け、排泄パターンを把握する。それを元に習慣を活かした誘導を行う事で、失敗やおムツの使用を減らすよう努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて排便の間隔を把握する。水分、食物繊維の多い食べ物を積極的に取り入れるなど工夫している。又、軽い運動を行う様に促す。それでも便秘の時には主治医に相談し服薬等でコントロールしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週4日入浴日を設けているが、本人の希望があれば対応可能。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理強いせず、本人の過ごしたい様一日を送れる様に配慮している。昼夜逆転、ADL低下を防ぐ為にも散歩やレクリエーション、体操の時間を確保している。就寝時間も特に決めておらず、本人の生活習慣に合わせている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを作り、セット時や変更時は必ず目を通し把握に努める。それと共に薬専用の申し送り帳を作り周知に努めている。配薬の際には日にち名前を読み、配薬チェック表にサインし誤薬防止に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴等の情報収集に努め、それを活かし楽しみや役割を持って生活して頂けるように支援している。又、嗜好品も出来る限り続けていけるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には出来るだけ出かけられるように配慮している。遠方や普段行かないような場所の際は、家族と相談し出かけられるように支援する。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力のある利用者はお小遣いをもち、嗜好品等はそこから自分で支払いをしている。手持ちが難しい方も支払い時にお金を渡し自分で支払いが出来る様にしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には何時でも電話が出来る。手紙や年賀状、暑中見舞いのやり取りが出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるような装飾をしたり、カーテンや壁紙は自然な色を使用している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル、ソファがあり、思い思いにテレビを見たり、レクリエーションに参加したりしている。また、孤立しないように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・短期利用の際には、危険物以外は使い慣れたものを置けるようにしている。本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室や居室には分かるように張り紙をしており、各入口、ユニット内、施設内はバリアフリーになっており、自立した生活が送れる様に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
			○	③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流を組み込んだ運営理念を、毎朝唱和しスタッフ全員に意識付けると共に、実践に繋げる取り組みを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校等の教育機関の研修やボランティアを積極的に受け入れ、年2回の保育園との交流や、又年1回開催するバザーには毎年地域の方々にお越し頂き交流を図っている。子供110番、応急手当普及員の常駐等地域に役立てる様な取り組みを行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、家族代表の方や地域の民生委員の方に認知症について話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、家族代表の方に参加して頂き、利用者の状況や施設の行事、スタッフの状況について等の報告を行い、そこで出た意見をスタッフと共有し取り入れ、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括や、保護課との連携をとりつつ、市主催の研修への参加を積極的に行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、それを会議等で全職員に周知する。また、身体拘束排除についてのマニュアルをいつでも見れる所に置いている。ユニットでは、入り口に鈴を付ける、置き型センサーを置く等の工夫をし、施錠をせず見守りを徹底し身体拘束の無いケアに取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し、それを会議等で全職員に周知している。また、ユニット会議でケアについて振り返り、職員で話し合い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修に参加し、学ぶ機会を設けている。また、必要な際には関係者と話し合い支援している。また、実際に成年後見制度を利用している入居者も居る。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書の内容、グループホームについての説明を出来るだけ詳しく行い、質問等にじっくりと答える時間を設けて納得の上署名、捺印を頂いている。料金改定など変更のあった際には、面会時、電話、文書などで変更点を伝達し、理解を得る。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に、家族へコミュニケーションを密に取り、情報交換等をし、関係作りを行うことで意見を言いやすい雰囲気づくりをしている。また、出た意見はすぐに職員間で共有し対応する。介護保険サービス苦情相談窓口のポスターを掲示し、意見を表せるように配慮している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等で職員の意見を聞き出すことで、管理者だけで決めるのではなく、運営に職員の意見を反映させるようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状態、努力や実績を評価し、時給のアップや役付けを行うことにより、向上心、やりがいを持って働けるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等は判断材料とせず、本人のやる気や能力や人柄で判断する様にしている。働く職員もやりたい仕事や学びたいこと、研修は可能な限り行かせ、能力が発揮出来る様に配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎朝、運営理念を唱和し、利用者の尊厳を守ることを啓発している。また管理者は人権についての研修や講習会に参加し、学んだことを職員に伝える。又、常々ユニット会議等で利用者に対する人権の尊重について話しをする様にしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市、県の研修の情報を掲示し希望者には受講させる。スタッフ一人一人の力量に応じて、必要と思われる研修には積極的に参加させる。その際は勤務扱いにする事で働きながら学びやすい環境を作る。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所の他事業所へバザー等行事の案内を行い、交流の機会を設けている。研修に積極的に参加することにより、そこで知り合った同業者と情報交換を行う様にする。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、家族や関係者等に話を聞き、情報収集に努め、どのような支援が出来るか把握する。そして出来る限り本人との面談を行う。初期には、小まめにコミュニケーションを取ることで信頼関係を築き、安心した生活が送れるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前（見学时など）や、契約時に家族の意向を聞きサービスを開始する上での要望や不安な点等を聞く。面会時などには状況報告等を行い、コミュニケーションを図る事で、良い関係作りが出来る様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	見学や契約、入居等の際に聞き取りを行い、 本人や家族から集めた情報を元に、その時必 要なサービスを見極め、支援出来る様努めて いる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	日頃より利用者と共に調理、洗濯作業等を行 い役割りをもって頂くことで、家庭的な雰 囲気を重視し、暮らしを共にしている関係を 築く様に心掛ける。その人の立場に立って、 寄り添う介護を行うように心掛け、信頼し合 える関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	面会時の情報交換や細やかな状況報告等で 共に本人を支えて行けるような関係作りに 努めている。行事等で声掛けを行い、本 人と家族が触れ合えるきっかけ作りを積 極的に行う。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないう、支援に努めている	家族や知人から情報を貰い、知人の面会 時にはゆっくり話が出来る様配慮する。 また本人の行きたい場所があれば家族の 協力を得て、可能な限り叶えられるよう 支援に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合える ような支援に努めている	利用者間の関係を把握し、トラブルにな らないよう配慮しながら、スタッフが架 け橋となり、なじみの関係作りが出来 る様きっかけ作りを行う。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、 これまでの関係性を大切にしながら、 必要に応じて本人・家族の経過をフ ォローし、相談や支援に努めている	利用者が退去後も、家族へバザー等 の行事へのお誘いを行うことで、 関係を保って行ける様に努めてい る。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介助中や、コミュニケーションの中で、本人の希望や、意向を聞き出せるように努めている。また、聞き出せた希望を可能な限り叶えられる様努めている。困難な場合には本人の立場に立って、本人本位でユニット会議等で検討する。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族やケアマネや前に入居していた施設等から、生活環境、利用してきたサービスの経過等の情報を収集し、把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察で、一日の様子や心身状態やADLの現状の把握に努め、その情報をもとにケアに活かしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と介助時や等にコミュニケーションをとり意見を聞き出し、ケアに活かす。家族と面会時等に出来るだけ話をし、意見を聞く。又、主治医やスタッフと話をし、意見を取り入れた介護計画を立てるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を経過記録を記入し、変化があった際には詳しく記録している。意見は申し送り帳に記入し、職員間で共有し、ユニット会議等で検討している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族とのコミュニケーションの中で出てくる、その時々ニーズに合わせて、今までのサービスの枠に囚われず、柔軟な支援を行える様に心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の教育機関の訪問の受け入れ、地域の医療機関の往診、訪問理美容等を取り入れ、本人が地域資源と関わる機会をつくり、その中で安全で豊かな暮らしが出来る様に支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するなじみのかかりつけ医を受診出来る様に配慮し、支援している。かかりつけ医の受診、往診の際には情報交換を密に行っている。また、病状に合った医療機関の提案を行う事もある。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務しており、その際には現状の報告を密に行い、適切な受診等の指示を受けている。また、急変時等は24時間連絡が取れるようになっている。また、往診看護師にも対象利用者の報告を密に行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診の際等に病院関係者との連携を図り、入院した際にも安心して治療が受けられるように情報交換を行っている。入院した際にも病院関係者とこまめに連絡を取り合い、出来る限り早期に退院出来る様にしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し込み時や入居の際に看護師が常駐していないため、医療行為が出来ない、看取りケアは出来ない旨、事業所に出来る事を十分に説明し、納得したうえでの入居となっている。また、重度化した際には本人や家族や医師と連携を取り方針を話し合う。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正社員は応急手当普及員講習に全員行っている。（定期的に更新の為の講習有）パート職員も全員避難訓練の際応急手当講習を受けている。緊急時マニュアル、利用者の状態をまとめたファイルを常備し、急変時にはスムーズに対応出来る様にしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署の指導に従い、日勤帯、夜勤帯を想定した避難訓練を行っている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝、理念を唱和し、利用者の尊厳について意識付けている。ユニット会議等でも全員で話し合い、プライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決めるのではなく、本人の希望を最優先させる様にしている。また、自己決定の出来ない方は、表情や日頃の行動を観察して読み取り、対応する様にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望される事があれば、その日の勤務の職員で話し合い、出来る限り叶えられるように支援している。利用者それぞれのペースに合わせ、介護をする様に心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服はスタッフが選ばず、出来るだけ本人に選んで頂く。欲しい衣服等あれば、一緒に買い物へ行き、好きな物を本人が選んで購入出来る様支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の際に、出来る方にはそれぞれの能力に合わせたお手伝いをして頂いている。また、調理の前に何か食べたい物が無いかな聞きだし、献立に取り入れている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態を考え提供し、食事摂取に必要な介助を行っている。検食簿を記入し、偏りのない食事を提供できる様に心掛けている。また、水分チェック表を記入し把握することで、一日に必要な水分量が確保出来る様に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、ケアしている。また、週1回の訪問歯科にて、口腔ケア、口腔内のチェックをして頂き、口腔ケアについてのアドバイスをもらうこともある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排せつパターンを知るため、必要な方は排せつチェック表を付けている。それを元に、工夫し出来る限りおむつ等を使用しない様にしている。使用していた方も、本人、家族、職員間で話し合い、極力自立に向けた支援が出来る様に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の間隔を把握する。水分、食物繊維の多い食べ物を積極的に取り入れるなど工夫をする。また、腹部のマッサージをしたり、歩行可能な方は散歩等軽い運動も行うように働きかけている。どうしても出ない際には主治医に相談する。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は基本は週3回だが、希望される際にはすぐに対応出来る様にしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人主体で過ごしてもらうために、何事も無理強いせず、休息したい時には居室やリビングにてゆっくりしてもらっている。昼夜逆転を防ぐため散歩や入浴、レクリエーションで活動する時間も設けている。就寝時間も特に決めておらず、一人ひとりの習慣に合わせて安眠出来る様に支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに薬情をまとめ、一人ひとりお薬手帳を用意して、いつでも見れるようにしており、職員は必ず目を通し把握に努めている。服薬の際には必ず名前、服薬を確認し与薬した者がチェック表にサインをする。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニットで、出来る事をして頂くことで役割を担ってもらう様にしている。一人ひとりの趣味や特技を活かし楽しみをもって生活して頂けるように支援している。また、嗜好品に関しても、出来る限り続けて行けるように配慮し支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある時には、出来る限り出掛けるように支援している。普段行けない場所に関しては、家族と話し合い、出かけられるように支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力のある利用者は、お小遣いを持たせて買い物の際には自分でお財布から支払いをしている。手持ちが難しい方も、出来るだけ支払いの際にはお金を渡し、自分で支払いが出来る様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望されれば、いつでも電話が出来る様にしている。荷物等を送りたい場合は郵便局にお連れする。また、年賀状のやり取りを毎年支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの温度計を見て、適切な温度が常に確認し調整を行っている。季節感を出すような装飾をしたり、カーテンやクロスなども自然な色のものを使用するようにしている。また、危険因子は取り除き移動しやすく生活しやすい環境作りを心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルが3台あり、レクリエーションしている方達や、一人でテレビを見る方もそれぞれが思い思いに過ごせる様な雰囲気作りや、逆に孤独にならないように気配りをするように心がけている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、危険物以外は今まで使われていた馴染みの家具を置ける様にしている。本人が居心地の良い空間になる様に本人の希望を取り入れながら、空間作りを行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニットや廊下、トイレや浴室には手すりがあり、バリアフリーになっていて安全に使用出来る様工夫してある。また、トイレや自分の居室もわかりやすく張り紙を貼る等に対応している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない